

2022年12月 昭和鯨城会会報 108号

昭和こいよう会便り



第20回趣味の作品展を終えて

会長 小川 賢雄

10月18日(火)から20日(木)まで、昭和区役所の6階602・604会議室で趣味の作品展を開催しました。昭和鯨城会は今年の4月1日に創立30周年を迎えましたが、趣味の作品展も今年で20回となりました。

会場については一昨年・昨年と「名古屋市市政資料館」3階第2～第4一般展示室でしたが、今年は3年ぶりに身近な昭和区役所をお借りする事が出来ました。

コロナ禍で、三密対策が引き続き実施される中での開催でしたが、お陰様で出展数68点、来場者延べ166人となり盛況のうちに終える事が出来ました。

展示期間中には、藤井昭和区長、昭和鯨城会会員はもとより、他区鯨城会の会員も多数来場され、昨年同様に28期女性会員10名による「匂い袋」は限定100個を希望者に差し上げましたが、2日目の19日には無くなりました。

皆様方のご来場に深く感謝いたします。ありがとうございました。

第 20 回 趣味の作品展

開催期間 令和4年10月18日(水)～20日(木)

開催場所 名古屋市昭和区役所6階第2、第4会議室

出展者数 33名、作品数 68点、来場者数 166人

写 真



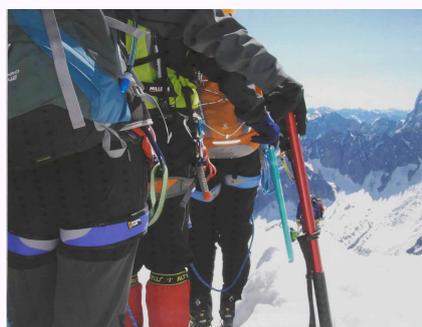
(左) いざ出発



(中) 国境の島

(右) 最東端の駅

32期 水野 晃



アルプス氷河トレッキング

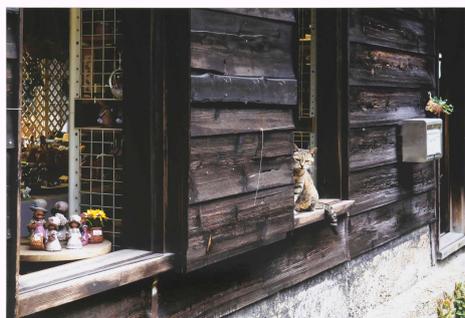


トワール氷河(シャモニー)

32期 後藤 恵津代



湖に刺さるフォーク(スイス)



(上) 見てってニャー

(右) やきもの散歩坂

32期 伏屋 満



黄色いハイビスカス

33期 山田 浩



ヨー！ 元気！！



湖面の秋

29期 阪本 勝



国宝迎賓館赤坂離宮



花菖蒲と傘の花の共演

17期 片山 咲枝



金鯨降臨

26期 藤田 保志

水彩画



花冠



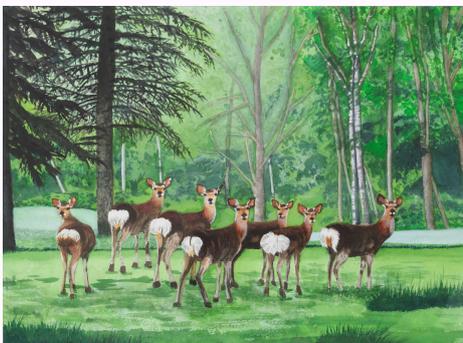
慈恩禅寺

31期 小川 賢雄



森の道

26期 稲垣 幸男

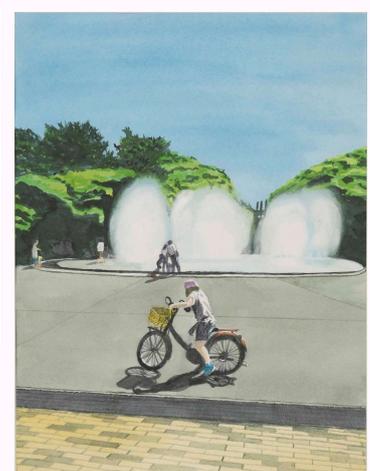


あっ、だれか来た！

31期 杉江 恵理子



バラ日和



噴水出たよ！



鶴舞公園



安曇野

20期 奥中 さと子



原村



地蔵川(米原市)

33期 中村 誠司



坂折棚田(恵那市)



龍飛の漁村(青森県)



紫の貴婦人



池の辺り

33期 早瀬 芳二



南アルプスを望む



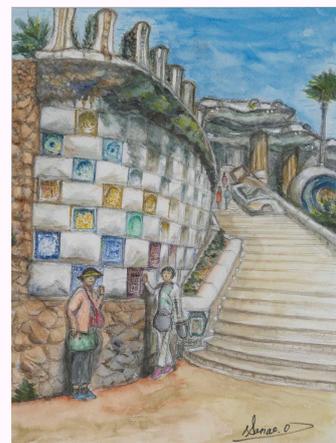
獅子柚子で邪気祓い

28期 高橋 正子

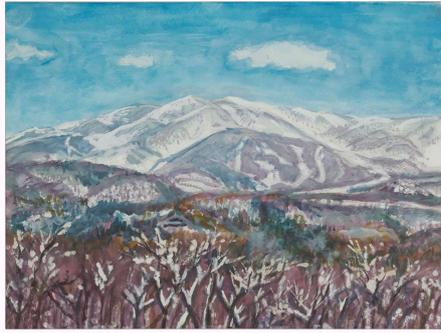


笑いが1番

28期 大河内 早苗

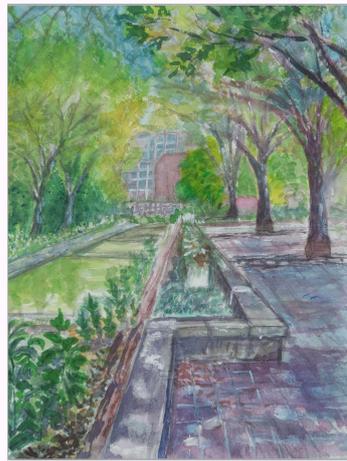


情熱の街



ひるがの高原より大日岳を望む

29期 平石 茂



グリーンピア春日井



フリリエ

28期 榎原 寿々子

パステル画

油 絵

水 墨 画



静 寂

30期 小中 芳子



雪 景 色



書



寿比南山

26期 稻垣 幸男



桔 梗

30期 原田 豊美



(上) タケノコ

(右上) 雨中釣燈籠図

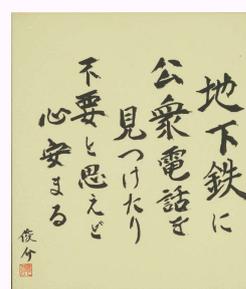
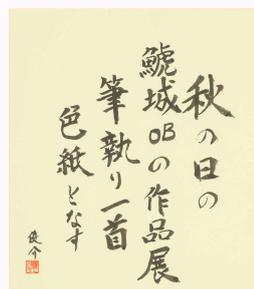
(右) 虎 図

30期 山口 勝弘



短

歌



(左) 短歌 A

(右) 短歌 B

26期 大野 俊介

手 工 芸



香り袋

28期女性10名
石黒良江、伊東和世、
大河内早苗、加藤春子、
近藤テル子、榊原寿々子、
佐藤富士子、高橋正子、
長谷川みや子、原田千里

和布バック
32期 小川由美子



フェルト袋と布のネコ
28期女性8名
石黒良江、高橋正子、
近藤テル子、大河内早苗、
加藤春子、榊原寿々子、
佐藤富士子、原田千里



押絵5点
32期 服部 三津江



つり飾り
28期
石黒 良江

竹 工 芸



松葉編み瓢手付き籠
28期 高橋 正子

折
り
紙



四 季
27期 横田 寿子

ガ ラ ス 工 芸

(右) ステンドグラス クリスマスツリー
(下) グラスリッツェン ワインピッチャー
28期 佐藤 富士子



陶 芸



志野茶碗



長 皿

30期 山口 勝弘



サラダボール



竹の水盤

31期 小川 賢雄



小 皿



花瓶

24期

亀井栄子

自由作品



ミュージアム万華鏡 part2

31期

細野 博行



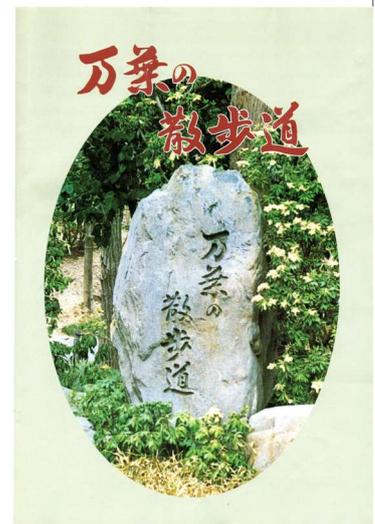
行事レポート

東山植物園散策に参加して

32期（地域A） 村雲 堀田 兼義

晴れた夏日となった9月16日に、メンバー11名で、東山植物園の「万葉の散歩道」を散策する行事に参加した。この散歩道には、万葉集4,500首から、植物を詠んだ100首にちなんだ植物が植えられている。

東山植物園のガイドボランティアである後藤恵津代行事委員から、事前に用意された万葉植物の歌などの説明を受け、実際の植物を見ながら、これが歌に詠まれているものと納得しながら勉強させてもらった。



パンフレット



ヤブツバキ前での説明



ニワトコ前で

散歩道は合掌造りの家の東から始まる。足元にはギン

ナンのような実が沢山落ちており、チャンチンモドキ(別名カナメノキ)という樹の実とのこと。

百選の最初は、ヤブツバキが植えられ、坂門人足(さかとのひとり)の歌、「巨勢山(こせやま)のつらつら椿つらつらに見つつ思わな巨勢の春野を」が記された立札があった。植物と歌の解説を聞いた。次いで衣通王(そとおりのおおきみ)が詠んだニワトコ。また、大伴家持、山上憶良、額田王、など知っている歌人があったが、沢山で見切れなかった。また、柿本人麻呂は歌の立札があったが詠まれたノキシノブは見あたらなかった。



シラタマホシクサの湿地園

途中で散歩道に戻り、湿地園では今を盛りのシラタマホシクサの他サワキキョウ、ミソハギを鑑賞、そこからの曲がりくねった階段ではノキシノブが見られた。

登り切ったところで小休止。更に休憩

所まで登ると、手前の草むらの中にナンバンギセルが隠れていたのを教えていただいた。



ナンバンギセル

ここで、丁度園内の循環バスが来たので、健脚の人を除いて、星ヶ丘門まで届けていただいた。最後に記念撮影パチリッ！ 解散。



記念撮影

ボランティア報告

「あそびの広場」土鈴の絵付けブース

33期（生活A）御器所 片岡 晴彦

「あそびの広場」は昭和区社会福祉協議会の一組織である昭和区ボランティア連絡協議会が主催するお祭りイベントで、毎年、昭和区役所講堂でハンドベルやダンスのステージショー、ものづくり広場、幼児の広場等が行われます。対象は、主に昭和区の幼稚園や保育園の園児です。

今年は9月4日(日)、開催時間を11時から13時までの2時間に短縮して行われました。コロナ禍で2年間開催が自粛され、3年ぶりです。スタッフは桜花高校インターアクトクラブの10人をはじめとして合計30数人、来場者は親子合わせて約150人でした。初めて抽選会が行われ、賞品は米5kgでした。この賞品が余ったらしく、終了後にスタッフ対象にジャンケン大会が行われて使われました。

昭和鯉城会は、昭和区ボランティア連絡協議会の加入団体であり、毎年土鈴の絵付けの場を提供しています。

土鈴は、2年間のコロナ禍中も皆で何度も川名のライトハウスに足を運び、作りだめをしました。素焼きをしてもらい、在庫は127個ありました。久しぶりの粘土いじりは無心になって集中することができ、少しずつ形になっていくのが楽しかったです。

「あそびの広場」当日の絵付けコーナーの運営は、経験がある先輩方の指導の下、臨機応変に手順を改善して、少しずつ要領良くなっていきました。



やったー！

まず子供たちが土鈴を一つ選びます。私たち素人が作った拙い土鈴でも喜んでくれました。その土鈴にアクリル絵の具で絵付けをします。子供たちは真剣な表情で、色を選び、筆を使いました。アクリル絵の具で洋服が汚れても一切気にすることはありません。桜花高校のインターアクトクラブの4人も飛び入りで参加し、その出来栄は可愛らしいものでした。



桜花高校生も参加！

絵付け後、我々スタッフがその上から透明のラッカースプレーでコーティングし、屋外のラックにぶら下げて20分乾燥後、引き取りに来てもらいました。2時間という短時間でしたが、32人が絵付けをしました。

昭和鯉城会の絵付けスタッフは7人で、途中何人か飛び入りで手伝いに来てくれました。



土鈴部隊ボランティア



ステージショー



盛況な土鈴絵付け作業

お客さんが一度に重なると本当に忙しくて、でも楽しかったです。

絵付けをとおして福祉のまちづくりに少しだけ貢献出来ました。昭和鯉城会として、来年も引き続き「あそびの広場」に参加したいです。

ボランティア報告

昭和区区民まつり 土鈴の絵付けブース

33期 (生活 A) 御器所 片岡 晴彦

昭和区区民まつりは、10月23日(日)晴天下、鶴舞公園で3年ぶりに盛大に開催されました。

60のブースが出店され、飲食、ゲーム、工作はもとより、自衛隊の軍用車両や昭和消防署の起震車体験、昭和警察署のミニ白バイ展示、広報名古屋掲載の抽選券による抽選会が行われました。また今年は園を回りながらの謎解きゲーム「ショウちゃんの謎解き」もあり、一日楽しめるほど盛りだくさんでした。

私たち昭和鯉城会は、噴水塔北西の30番ブースで、陶芸作品の販売と土鈴の絵付け体験コーナーを運営しました。スタッフは11人です。朝7:45に集合し、テーブル、椅子を配置し、持ち場の準備を開始しました。



○陶芸作品の販売

鯉城学園の陶芸専攻OB作の陶器の皿、湯呑、お茶碗、花瓶、果物籠など約120点を売り出しました。作品はとても丁寧に作られており、素人とは思えないほどの大作ぞろいです。これに厳正な価格設定をし、白いクロスに整然と並べました。河村市長のオープニング挨拶中からお客さんがみえて飛ぶように売れていきました。購買層は女性が多かったようです。最終的には約8割が売れました。



陶器の販売

○土鈴の絵付け

昭和鯉城会会員が作った素焼きの土鈴に、子どもたちがアクリル絵の具で絵付けをし、その上から透明のラッカースプレーでコーティング、そして20分乾燥させます。

大盛況でした。土鈴は不足しないようにと思って83個持参したのですが、有料で1個百円にもかかわらず、2時には完売しました。



子供たちの絵付け

お母さんやお父さんに付き添われた子どもたちが、真剣な表情で筆を走らせていました。途切れることなく希望者が並び、私たちスタッフは昼休みも取ることなく対応に追われました。



塗り終わった土鈴にコーティング後天日乾燥

陶芸作品を寄付してくれた陶芸専攻OBの皆様、土鈴を作ってくれた昭和鯉城の皆さん、当日スタッフとして汗を流してくれた皆さん、本当にありがとうございました。来年は土鈴100個完売を目指して頑張りましょう。

会員の広場

陶芸との出会い

30期（陶芸） 松栄 山口 勝弘

我が家のリビングの飾りは、私の陶芸作品ばかりである。

練習作の乳と尻を露わにした獅子が門番さながら玄関を飾り、妻は水盤に料理を盛り、あらゆる皿や椀が日変りで食卓を賑わす。

更に骨壺にでもと思って作った壺に花が生けられ、大ぶりの茶碗には苔玉が鎮座ましましている。

一初心者のおぼろげな駄作も使い方次第でなかなか趣があるものだと私は飾り上手な妻と悦に入っている。



菓子箱(2019)



花器(2021)

そもそも私が門外漢の陶芸に関わるようになったのは70才の時である。たまたま鯉城学園のパンフレットを目にし、深く考えることなく入学、陶芸を選択した。楽陶館にて粘土などさわったことのない私が2kgの粘土の塊に対した時は、初めての感触にさすがにドキドキ手が震えたのを覚えている。クラスの半数の方々は一経験者で、中には日展に入選された方も見え、自分との落差に驚きもした。

ついて行くだけで無我夢中の2年だったが、僅かなりとも自分なりに納得する作品を制作することができた上に、苦楽を共にする多くの仲間との出会いにも恵まれた。

その仲間と今も尚、陶芸を続けられていることがうれしい。

思い返せば、何気なく学園に入学したことから今迄と違った世界が広がった様に思う。

仕事上の知人からは仕事を離れば半分以上は疎遠に、仕事から離れて得た仲間が、今の大切な友人である。

鯉城学園に妻が感謝するばかりである。



土鈴づくり



花器(2020)



ボランティア報告

ゆめ緑道ごきそ「花壇」の植え替え

31期（文化A）川原 下和田 学

今年も夏の花を植え替える時期になり、6月24日に実施しました。会員13名で、荒れ放題の花壇を除草・整地し、「夢街道御器所」のボランティアの方たちが川名公園の苗場で育ててくださった、ジニア、コキアなどの花を移植しました。



植替え前



花壇の場所



除草作業



移植作業

沢山配布していただきましたので、余った苗は、参加者それぞれが自宅等の植栽にも利用することにしました。

整備した当初は梅雨明けがかなり早く、カンカン照りの日が多く、水遣りもしっかりしなければと思って頑張りました。会員各位の協力もあり、その後、戻り梅雨で水にも恵まれ、酷暑にも耐えて、夏の終わりから秋には例年にも増して立派な花壇になりました。



植替え後



10月の開花状況

編集後記

新型コロナウイルスは依然継続していますが、昭和鯉城会もようやく色々な活動が計画どおり実施できるようになりました。秋季になっては、各委員会の活動により、ビッグイベントの作品展や、近年実施できなかった土鈴の絵付けボランティアなどを行い、ここに報告することが出来ました。

昭和鯉城会 「昭和こじょう会便り」 2022年12月108号

発行責任者 小川 賢雄

広報委員長 伏屋 満 副委員長 樋口 敏幸

広報委員 杉江 恵理子、細野 博行、中村 誠司、早瀬 芳二

表紙絵 「趣味の作品展」風景

名古屋市高年大学鯉城学園・昭和鯉城会共同発行